

CONTENTS - 目次 -

| | |
|--------------------------|-----|
| 2025 年度通常総会 | 1 |
| 第 37 回 帰国報告会 | 2 |
| 市民大学、公民館連携、学校連携などの「出前講座」 | 3-8 |
| 派遣先からの会員メッセージ・会員の動静 | 8 |



e-mail
 chibajicasv02@gmail.com



Web site
<http://www.chibajicasvob.com>

■ 2025 年度通常総会

2025 年度通常総会が 5 月 18 日（日）15:10 から浦安市国際センターで、来賓として JICA 東京の紺屋健一所長、千葉デスクの岡本多永氏、青年海外協力隊千葉 OB 会の西村邦雄会長をお迎えして開催されました。

出席 15 名、委任状提出 25 名、保留 1 名は会員 53 名の 77.4%であり総会は成立しました。1 号から 6 号までの議案は原案通り承認され、総会は滞りなく終了しました。総会后、第 1 回拡大役員会が開かれ新役員の方掌が決定されました。

会長挨拶（要旨） 中西 陽典

出席、委任、保留数合計 41 名は会員数 53 名の 2 分の 1 を超えているので規約第 9 条に基づき総会は成立していることを宣言します。本日は来賓として、JICA 東京から紺屋所長、千葉デスクから岡本さん、青年海外協力隊千葉 OB 会から西村会長、シニアボランティア経験を活かす会から齋尾さんにご参加いただきました。議題は第 1 号から第 6 号議案までありますので、審議いただきたい。



会長挨拶 中西 陽典



来賓挨拶
 JICA 東京 紺屋 健一 所長



来賓挨拶
 JICA 千葉デスク 岡本 多永 国際協力推進員

2025 年度 新役員人事と分掌

| | | | | | |
|-------|-------|--------|-------------|-------|--------|
| 会 長 | 中西 陽典 | (我孫子市) | 幹 事 | 露木 雅美 | (浦安市) |
| 副 会 長 | (欠員) | | 幹 事 | 岡崎 英子 | (千葉市) |
| 事務局 長 | 高瀬 義彦 | (茂原市) | 幹 事 | 服部 正 | (八街市) |
| 幹 事 | 江田 隆正 | (千葉市) | 会計監査 | 添野 良一 | (鎌ヶ谷市) |
| 幹 事 | 登内 明 | (浦安市) | 特任委員-Web 管理 | 黒田 啓嗣 | (野田市) |

第37回 帰国報告会

講師：服部 正 元 JICA 海外協力隊 体操競技指導 コスタリカに 2 回派遣 元千葉市公立学校教員

演題：コスタリカの魅力を探る - 文化や自然を通して

第37回 帰国報告会（共催：浦安市国際センター、後援：JICA、千葉県、浦安市）が、2025年5月18日（日）浦安市国際センター研修室を会場にして開催されました。当会は、例年この時期に公開講演会を開催してきました。2025年度、コロナ禍後 JICA 海外協力隊の千葉県出身新規帰国者が徐々にできてきました。このような事情から今回「第37回帰国報告会」を開催することにしました。



講演概要

私は、2018年10月に JICA シニアボランティアとして、1回目のコスタリカ派遣となりました。2020年3月、残念ながらコロナウイルス蔓延のため緊急帰国となり、この時の活動は1年半でした。その後、もう一度チャレンジしまして、2023年1月に、今度は JICA 海外協力隊として派遣されました。1回目の時は JICA シニアボランティアという名前でしたが、JICA そのもののシステムが変わり、若者もシニアも同じ形で派遣されるようになったため、名前も JICA 海外協力隊に変わりました。それで、コスタリカに 2 回目の派遣となり、今年の1月に任期満了で帰国しました。

任地の住居とその周辺

サンホセの郊外に住んでいました。首都サンホセの中心街の様子を紹介します。この建物は国立劇場で、国の重要文化財です。とても賑やかな場所です。この通りでは毎日楽器演奏をしているおじさん達があります。

コスタリカはどんな国



コスタリカは、常夏というよりも常春の国と言えます。とても過ごしやすい国で、人々はお祭りが大好きです。また、幻の鳥「ケツァール」を見ることができるとても有名です。

西海岸のオスティオナルという場所はウミガメの集団産卵「アリバダ」が起こることで非常に有名です。

私の料理修行

ご飯は豆が入った「ガジョピント」という有名な料理で、その上



には熟成バナナを焼いた「プラタノ・マドゥーロ」、野菜炒め、塩味の豆が乗っています。これが一番一般的な現地の料理です。

2 回目の活動



1回目と同じ職場に戻ったため、コーチも生徒も顔なじみが多く、コロナウイルスが収束してやっと戻ってきたという雰囲気、温かく歓迎してもらえました。コーチ陣

は、コスタリカ人2名、私、そしてニカラグア人2名、キューバ人1名と国際色豊かで、子供たちも楽しそうで、私自身も楽しい活動ができました。アクロジムナスティックスという競技の講習会に参加し、補助をしながら演技の創作にも携わりました。

日本文化紹介イベントに参加



2回目の活動では数多くの日本文化紹介イベントに参加しました。習字の紹介や折り紙の指導、箸の使い方などです。また、JICA の仲間の紹介で、コスタリカで

最も大きな大学、コスタリカ大学でも日本文化紹介イベントを開催しました。日本の紹介や千葉県の紹介に加えて、習字などの日本文化に触れてもらう機会を設けました。非常に良い経験となりました。

柏市立富勢東小学校とのオンライン授業

コスタリカの魅力を日本の人々に伝える活動の一つとして、柏市の小学校とオンライン授業を実施しました。これは、千葉県 JICA シニアボランティアの会を通じた依頼で、イベント実施前に、現地の子供たちにインタビューを行いました。



（以下割愛、講演全文は次の URL からご覧になれます。）

<https://drive.google.com/file/d/1dt056x7819ZnzHP8C4SnrQuoJ8QVvVmL/view?usp=sharing>

市民大学、公民館連携、学校連携などの「出前講座」 出前講座の講師をご依頼ください。

(以下の講座紹介は各講座の依頼元、立会人、あるいは講師によって作成された報告書、内容は共通でも表現には作成者の個性が現れています。)

▶ 自治体連携講座 八街国際理解大学

第3回 2025年1月25日(土) 14:30-16:00

講師：中西 陽典

演題：国際交流とSDGs

八街市国際交流協会主催の八街国際理解大学の第3回講座が開催され、14名の方々に参加いただきました。

1) 今までの海外経験について 19年の海外駐在経験について

2) 人種、民族の移動、国際交流の成り立ちについて

3) アメリカ、ドイツ、フィンランド、スペイン、イタリア、中国の民族、文化について概観

4) ドミニカ、JICA派遣。ドミニカ共和国の歴史、民族、国の特色、経済などの解説、貧富の差

5) アルゼンチンの地理的特徴、産業、食生活、芸能スポーツなど

6) ボランティアとしての活動について 政府機関での活動。中小企業の競争力アップのための支援活動。

7) SDGsについて。

気候変動については、化石燃料をできるだけ使用しないような意識が大事。プラスチックはあまり使わないように。国際協力に基づいて行わないとならない。17の目標のうち、実現のために、私たちができそうな事を、心がけるのが重要ではないか。

8) 国際協力について。目的と活動の経験から感じた国際交流の魅力について。

聴講者からの質問

日本と海外での生活は、どちらが幸せだったか。
便利なのは日本だが、精神的の豊かさは海外の方で感じる。海外は心に余裕があるのか。色々な価値基準を持っているためか。

報告者の感想

海外での経験をわかりやすく説明しており、わかりやすく良かった。

第1回 2025年6月14日(土) 14:30-16:00

講師：中村 時夫

演題：素敵なパラオの人々

八街市国際交流協会主催の八街国際理解大学令和7年度第1回講座が開催されました。参加者：14名

全体的に明るい雰囲気にもまれたユーモアたっぷりの講演会でした。最初シニアボランティアへの挑戦を決めた動機や派遣前訓練中のエピソードをおもしろく



伝えていました。パラオは、スペイン領時代、ドイツ領時代そして日本統治時代があり、特に日本統治時代には、道路の建設、工場の建設などインフラが急速に整備され、現金収入にもつながったことで、島民にとっても感謝されていたようです。現在でも約700の日本語、例えば、デンワ、アブラ、ダイトウヨウ、アンパン、スケベ、ダイクサン、アタマサビテル、ゴミスタバなどが残っています。学校では下校時「北国の春」が流れたり、綱引き、組み体操、リレーなど日本的な種目も取り入れられています。活動の中で、全国一斉九九テストの実施や先生方への実態調査と問題解決指導など、根気強く続けられ大きな成果を上げられました。

質問

Q: 言語には何が使われていますか？

A: パラオ語が中心ですが、英語も使われています。

Q: アメリカとの関係は？

A: 国家の収入が少ないため、アメリカから年間約40億円援助されています。緊急時には、島の一部分を提供する取り決めのようです。

Q: 年齢構成はどうですか？

A: 若い人がとても多い、でも太っていて、健康的ではない。

Q: JICAの援助は続いていますか？

A: 道路舗装や橋建設等のプロジェクトも行われています。

報告者の感想

成績が振るわないときに、「ばかだなあ」「あたまわるい」という表現ではなく「あたまさびてる」という昔の表現をそのまま今でも使っている事に、驚きと暖かみを感じ、一度言ってみたいと思う気持ちにさせられました。講師の絶え間ない探究心と現在につながるボランティア精神にも深く感銘を受けました。

▶ 自治体連携講座 流山ゆうゆう大学

趣旨：

「流山ゆうゆう大学」は社会参加を積極的に行える65歳以上の人材を育成する講座です。その中の「文化教養」科目を担当する講師要請が当会にありました。全受講者300名を6分割して同じ講義を1人の講師が実施する講座です。

演題：異文化理解と共生

講師：登内 明

講義内容（主催者からの要望で毎回同じ内容とする）

1. ジャマイカ概要
2. 派遣任務内容
3. 派遣活動を通じての気づき
4. ワークショップ異文化体験シミュレーションゲーム（バーンガ）
5. ワークショップふりかえり

演者は派遣活動から異文化を理解する重要性を認識した。ゲームを通じて異文化を理解できるような疑似体験をワークショップ形式で行なった。

- 第1回 2025年4月1日(火) 流山市北部公民館
 第2回 2025年4月15日(火) 流山市中央公民館
 第3回 2025年4月18日(金) 南流山センター
 第4回 2025年5月15日(木) おおたかの森センター
 第5回 2025年5月29日(木) 南流山センター
 第6回 2025年6月11日(水) 流山市東部公民館



受講者からの感想

1. 日本人にできてもジャマイカ人には出来ないことがある。それは文化の違いからきていることが良くわかった。
2. トランプを使ったワークショップが大変に面白かった。初めは混乱したが、それは異文を理解するための大事なステップであると感じた。

3. ゆうゆう大学の講義の中で最もユニークなものであった。



4. 自分でも人事異動で経験していたことを思い出した。このワークショップを経験していたら良かったのと思った。



5. 講師の方が和気あいあいの雰囲気を作ってくれていて2時間があっという間に終わってしまった。

6. 文化とは何か、という事をゲームを通じて理解できた。人生のふり返りのようだ。

7. 過去の経験から異文化を感じた事は、会社の合併、結婚、人事異動などであったが、ゲームで再現された気分である。

8. 講師は常に受講生との対話を重視していた。自分も自然に対話に参加していた。

9. 前段ではジャマイカ国を面白く紹介してくれた。その後のワークショップはさらに面白かった。

10. ワークショップでは受講生同士の会話が禁止されていることが大変にストレスを感じた。しかし海外に出たらこのように言葉が使えなくなるということが実感できた。

演者の感想：

6回の講義は受講生とのコミュニケーションをはかるため、すべて双方向対話型のワークショップ形式で行なった。この流山ゆうゆう大学でのカリキュラムを通じて、異文化を理解する重要性を受講生に伝えることが出来たと思う。また流山市教育委員会からも本講座に対して高い評価を頂いた。今後のSV会活動のさらなる発展に繋がるものと思われる。



公民館連携講座

八街市いきがい短期大学

第3回 2025年1月15日(水) 10:00-11:30

講師：中西 陽典

演題：国際協力とSDGs

八街市中央公民館の催し、生きがい短期大学2学年第15回「足下から環境を考えよう」講座が開催され、20名の方々に参加いただきました。

講義内容

- 多様な国々、多様な社会、多様な文化や習慣はなぜ生まれたのか？
- 多様な国々、多様な人々、文化や習慣の例
- ドミニカ共和国とアルゼンチンの地理、歴史、人々の暮らし、文化
- 私達が直面する課題と私達にもできる国際協力
- SDGsの17の目標と特に大切なこと



質問

- 八街市内にも外国人が増えている。そうした身近な外国人との関係の作り方について

講演に対する感想

- 派遣された国々での生活で感じられたことを中心にお話をいただき、実感を伴って各国の様子を知ることができました。
- SDGsについて自分たちで取り組むべきことを考えることができました。

袖ヶ浦市平岡公民館

2024年11月16日(土) 10:00-11:30

講師：高瀬 義彦

演題：パラグアイの文化と自然

袖ヶ浦市平岡公民館の催し、「令和6年度国際理解セミナー」講座が開催され、14名の方々に参加いただきました。

講義内容

- 自己紹介：ラジオ少年時代、憧れの「鉄腕アトム」など。
- 任国到着直後の住居と語学訓練：6人家族にホームステイし交流、スペイン語現地訓練。
- 任地の人々との交流：アスンシオン大学工学部電力・制御システム研究室で太陽電池パネル制御を実行し完成。
- 任地で接した文化：民族音楽はポルカとグアラニア、ポピュラーな楽器はギターとアルパ、レース編みニヤンドウツティ。
- 任地の食べ物：国民食は肉とマンディオカと呼ばれるイモ、伝統の美味しい食べ物が沢山ある。
- 公園で接した自然（特に野鳥）：自然が豊かな公園内には沢山の小鳥、水鳥、猛禽類が生息していた。
- チャコの大自然：西パラグアイ（チャコ）はパンタナルに接し、大自然環境には多数の野鳥が生息する。



質問

Q: JICAへ応募するためのバックグラウンド要求されるのか？

A: 制度変更があり現在はシニア案件では一定の専門レベルが必要、一般案件では特にない。

Q: パラグアイに旅行考えているが安全か？

A: パラグアイは比較的安全、JICA関係では旅行可能地域が決められていて、安全でした。

Q: パラグアイは親米、新ロシア、新中国とかではどちらか？

A: 台湾と外交関係を持つ国なので新中国ではない。

報告者の感想（アンケートの記載）

*パラグアイの文化と自然全般説明していただき、大変おもしろく、楽しく聞くことができました。知らないことを知るという事は、勉強にもなり、このようなセミナーに参加して良かったと思います。

*野鳥、動物の紹介の動画を興味深く見せて頂きました。

*知りたいこと全てをお話しして下さった気がします。

*本日のテーマに入る前の自己紹介が長すぎた。

*もう少し文化的な話、技術的な話を聞けると嬉しかったと思いますが、時間制限で仕方なかったですね。

千葉市幕張公民館**2024年12月15日(日) 10:00-11:30****講師：露木 雅美****演題：(メインテーマは料理実習と試食)**

千葉市 幕張公民館の催し、「料理で学ぶ海外文化 ～東アフリカ ケニア～」講座が開催され、8名の方々に参加いただきました。

講座内容

はじめに、任国事情、任国の飲み水、ケニアの歌の項目の中で、東アフリカのケニア国とタンザニア国の自然環境、文化、そして小学生たちが生活用水取水する状況などが紹介されました。



続いて、カランガとチャパティの作り方が説明され、調理実習に入りました。

出来た料理を全員で試食しました。

**聴講者からの質問**

参加者からは、ケニアの気候について、ケニアの食材についての質問がありました。

終了後に寄せられた報告者の感想

出前講座実施報告書と写真を提出いたします。

料理はおいしくできましたし、受講者からは、楽しかった、アフリカについて知れたとの感想が得られました。私ももっとお話をお聞きしたかったです。

また機会がありましたら、ご協力いただければ幸いです。

袖ヶ浦市平岡公民館**2025年1月18日(土) 10:00-11:30****講師：添野 良一****演題：剣道ボランティアが見た世界と日本**

袖ヶ浦市平岡公民館の催し、「令和6年度 国際理解セミナー」講座が開催され、13名の方々に参加いただきました。

講義内容

- 剣道ボランティア：陸上自衛隊退官、外務省入省退官、民間入社退社を経て JICA シニア海外ボランティアに応募し南米ウルグアイに赴任、ウルグアイの道場で活動。
- 約 50 人が剣道と居合道をしていた。ウルグアイ剣道・居合道連盟が私をよんでくれた。
- 世界の武道：世界の競技人口は、フェンシング 50 万人に対し剣道は 250 万人と多い。
- なぜ世界で剣道が行われていると思いますか？剣道は競技で勝つことよりこだわる点が多い、修行・しつけ、美の感性、精神性などに魅力を感じるためではないかと思う。
- ウルグアイの文化：男性はあごひげをはやし服装はラフ、多くの人がマテ茶を携帯、女性は長い髪とマニキュアが定番ファッション。料理の定番はアサード（焼肉料理）。

**報告者の感想(アンケートの記載)**

- 日本の武道について全く知らなかった事に気がつきました。
- 色々と考えさせられる楽しい講演でした。
- 日本文化は大変素晴らしいということです。また幸福についても考えさせられました。
- 自分の息子も剣道をやっていました。試合で「礼に始まり、礼に終わる」という姿を見て感じるどころがありました。良い話をきかせていただきありがとうございました。
- 想定外の時間になった。幸福とか美とか武士道とか日本とか、みんなと一緒に考えるのも悪くないと思った。
- 日本の文化、自然のすばらしさに気付かされた。
- 知ることが少ない「ウルグアイ」についての講演で、興味関心が高まった。講師の先生も大変誠実なお人柄で楽しい時間をありがとうございました。
- JICA の活動で人生観が変わった事が伝わってきた。日本の武道が世界にも広まっているのに驚いた。
- ウルグアイの話より剣道などの話が多かった。
- いつもの講演とは違って、それなりの味はありました。しかし自身の考えを押し付け気味なのはいかがかと思えます。

■ 柏市令和7年度「学校訪問事業」

柏市立逆井小学校 6学年

2024年11月14日(木) 5-6校時

講師：中西 陽典

演題：国際協力とSDGs

柏市立逆井小学校からの要請で6年生52名と教職員を対象に講演を行いました。

講演内容

- 中西先生の海外での活動を知ろうという学習問題についてお話しいただく。



「海外の人種や文化を知ろう」

「国際紛争について考えよう」

「気候変動やSDGsについて考えよう」

などテーマごとに講義

- 児童の質問時間を最後15分程度インタビュー形式で行う
人種差別経験はあるのか/
住みやすい国、食べ物が好きな国/
危険な経験／言葉

感想

- 世界のことを知ることができました。広い見方や多くの価値観があることを知りました。
- SDGsでは、自分にできることを頑張りたい。



柏市立名戸ヶ谷小学校 6年生

2025年6月10日(火) 5校時

講師：上瀧 桃佳

演題：ちがうって面白い！ ～ソロモン諸島～

柏市立名戸ヶ谷小学校からの要請で6年生78名と教職員を対象に講演を行いました。

講演内容

- JICA 海外協力隊への参加理由
- ソロモン諸島の基本情報
- ソロモンの人々の生活の様子
- ソロモンの小学校の様子
- 上瀧先生が日本の子どもたちに伝えたいこと



質問

- どんな食べ物がおいしかったか？
- 観光するところはあるのか？
- 年齢が違う子どもでも、1年生であれば1年生の学習を行うのか？
- 医療制度はどのようになっているのか？
- 治安はどのような感じなのか？ など



報告者の感想

日本とソロモン諸島の生活の違いについて、非常にわかりやすく教えてくださいました。児童は、日本よりも不便なところもあるけれど、ゆったりとした時間を過ごしたり、ダンスで楽しんだり、家族や友達との時間を大切にしたりしていることを知り、ソロモンの生活のよさも感じていました。また同時に、日本とソロモンを比べることで、日本のよさも感じる事ができたと思います。今回の講演をきっかけに、諸外国の生活の様子に興味をもって学ぶ児童が増えるとういと思います。

お忙しい中、貴重な経験をお話くださり、感謝しております。

▶ 自治体連携

・ 千葉市生涯学習ボランティアフェア 2024

希望分野：アドリウムガーデンでの展示

展示期間：11月16日(土)から11月24日(日)

展示方法：パネルを使って展示

当会は上記の分野、期間、方法で JICA から派遣されて開発途上国で行った活動の写真をパネルに展示しました。

・ ちば市国際ふれあいフェスティバル 2025

2025年2月9日(日) 11:00-15:30

会場：千葉市役所 1階市民ヴォイド

主催：ちば市国際ふれあいフェスティバル運営協議会

共催：千葉市

当会は、「出展のみ」(前回同様)で参加しました。参加団体は全部で16団体でした。

当会は、JICA から派遣されて開発途上国で行った活動の写真パネルの展示と、国際クイズを行いました。クイズ正解者

には、会員が派遣国で入手したお土産品などをプレゼントしました。クイズには、小学生、中学生、外国国籍の方々、市民の方々が参加(約47名)されました。



当会のブースを訪れて、JICA 海外協力隊や当会の活動等について質問される方々もありました。当会の会長が丁寧に説明しました。

会員から寄付された大量の外国コインは一部景品に、余ったコインは「ユニセフ外国コイン募金」に全額寄付しました。

■ JICA 海外協力隊千葉県庁表敬訪問

・ 2025年度1次隊の県庁表敬訪問に同行

2025年7月9日(水)におこなわれ、当会からは高瀬事務局長が出席しました。派遣隊員は7名でした。

派遣先からの会員メッセージ・会員の動静 (敬称略)

半田 滋

派遣国：コロンビア 職種：再生可能・省エネルギー



こんにちは。2025年4月から「再生可能・省エネルギー」という職種でコロンビアの首都ボゴタにあるハベリアナ大学に派遣されている半田 滋と申します。私の協力隊参加は2回目です。日本では南米と聞くと暑いという印象ですが、ボゴタは標高2,600mと高地にあるため年間を通して最高気温20℃弱、最低気温8℃くらいで千葉県の11月頃といった感じです。

コロンビア生活で感じたあれこれ：初めて「ペロ・カリエンテ」と書かれているのを見た時は「熱い・犬」って、まさか犬を焼いて食べる訳ではなからう、と不思議に思いましたが、英語の「ホットドッグ」と同じだということがわかり、安心しました。コロンビアの主食は日本と同じく米ですが、細長いインディカ米で粘りがありません。玉ねぎのみじん切りをサラダ油で炒め、塩少々ともう少しサラダ油を加えて炊くのだと教わりました。味はOKですが、お箸ではつかめないので私はスプーンを使います。ジャガイモ、トウモロコシ、バナナの一種プラタノなどの炭水化物も多くたべられています。これらに牛、豚、鶏のどれかの肉類、豆類が一つの皿に盛られるのが一般的な昼食です。炭水化物が多くまた全体的に量も多いので、私は大学の食堂で食べる時は全て少量にしてくれます。冒頭に書きましたように、最低気温8℃と冷え込むボゴタですが、一般的な家屋には暖房設備がありません。私も夜シャワーを浴びた後は厚着をして風邪をひかないように注意して暮らしています。(全文のURL: https://drive.google.com/file/d/1p7aU3Qb-5mYewgSNXeHOKVD9Fswc_Q9R/view?usp=sharing)

会員の動静

・ 会員数 55名(2025年10月1日現在)

・ 2025年10月現在派遣中の会員

半田 滋(市原市) コロンビア 再生可能・省エネルギー

・ 2024年10月以降帰国された会員

永江 豊(流山市) マレーシア シニア/コンピュータ技術

上瀧 桃佳(松戸市) ソロン諸島 小学校教育

渡辺 章(松戸市) タジキスタン シニア/公衆衛生

編集後記：2024年度までの近年、帰国/活動報告会と「SVニュース千葉」発行は年1回でした。2025年度、新規帰国者も出てきましたので、帰国/活動報告会は年2回実施される計画です。「SVニュース千葉」の発行も年2回予定されましたが、郵送料などの経費節減のため、印刷物の配布は年1回に限定されました。当会の出前講座は前年16件、今年20件と増加しているので、2025年7月までのイベントを当41号、以降を第42号電子版で紹介する予定です。